



熊本県立天草工業高等学校 読書教育の取組

1. はじめに

天草工業高校は、機械科、電気科、土木科、情報技術科の4学科からなる1学年5クラスの全15クラス、全校生徒565名（令和2年5月1日現在）の工業高校である。図書館は情報技術科棟5階にあり、令和元年度末の蔵書数は32,636冊、生徒の貸出冊数は5,946冊、生徒一人あたりの年間貸出冊数は10.75冊である。

2. 朝の読書について

毎朝8時30～40分の10分間、朝の読書に取り組んでいる。この取組は平成7年度から開始し、令和2年度で26年目となる。勉強や部活動、検定、進路活動などで忙しい生徒達にとって、読書ができる貴重な10分間である。



3. 授業での図書館活用について

国語や現代社会での調べ学習や英語の絵本の読み聞かせ、美術、各科の課題研究の資料探し等で活用されている。

<授業例①> 3年生政治経済による防災学習

天草・熊本で起こった災害調べや防災マップの作成、防災グッズ（簡易トイレ、ロケットストーブなど）の作製、防災食づくりなど資料を参考にしながら防災について学んだ。

<授業例②> 2年生国語と現代社会の教科横断的な学習（ディベート）での資料収集

選挙における投票の棄権に罰則を設けるべきかや、死刑制度、選択的夫婦別姓、小売店の24時間営業の是非等について図書館の資料やインターネットで調べディベートを行った。



4. 図書委員会活動について

- ・しおりやブックカバー等を作製し、利用者へ配布
- ・おすすめの本紹介POPや3行レターの天工祭での展示
- ・ミニビブリオバトルの開催（令和元年度6月昼休みに実施）



5. 絵本の読み聞かせについて

① 保護者・地域ボランティアの方による絵本の読み聞かせ
平成29年度より保護者・地域ボランティアの方による高校生への絵本の読み聞かせを実施している。各クラスに入って

いただき、絵本を読んでいたただいている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為3年生のみ実施した。

② 高校生による小学生への絵本の読み聞かせ

平成29年度より近隣の小学校を生徒が訪問し読み聞かせを行っている。令和元年度は7月に小学校6校へ165名の生徒が参加し、12月には小学校7校へ181名の生徒が参加した。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為実施できなかった。そのかわりに、情報技術科3年生の課題研究で天草の民話『兜梅』について調べ紙芝居にし、それをプログラミングしたデジタル絵本を作製し、小学校7校へ配布した。



6. その他

- ・広報活動：『天工だより』掲載の「としょかん通信」や広報紙『AKL』を学校司書及び図書委員会が発行している。
- ・教科や人権学習、時事問題や講演会等に関する図書の展示。
- ・仕事や進路に関する本の充実に努めている。
- ・自校で不足する資料は、近隣の高校図書館や熊本県立図書館、天草市立図書館と連携し、相互貸借を行っている。
- ・資料が探しやすいよう見出しをこまめに作製している。
- ・機械科の課題研究で、溶接の技術を駆使した飛沫感染防止パーティションを作製し、図書館に設置している。

7. 成果と課題

これらの取組が評価され、令和2年度「子供の読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受けた。朝の読書を通して、日々の生活の中で本に親しむのと同時に、始業前に落ち着いた時間を過ごすことができている。しかし本校図書館は5階にあり、よく図書館を利用する生徒と、そうでない生徒の差がある。読書や勉強、部活動、進路活動等様々な場面でより多くの生徒に図書館を活用してもらえよう、潜在的なニーズの把握と蔵書構築、環境整備が今後の課題である。

今回寄贈していただいた図書カードで、生徒のリクエストである名作文学を挿絵とともに楽しむ『乙女の本棚』シリーズや小説、人体の細胞について学べる漫画『はたらく細胞』の他、防災、平和、情報科学等に関する本を購入し、蔵書が充実した。学校図書館には3つの機能があり、次年度からはGIGA スクール構想への取組も重要となる。「読書センター」「学習センター」「情報センター」として機能する学校図書館を目指して、今後も読書教育に取り組んでいきたい。

